

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 －2018年度活動報告－

**Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training Project
for Potential Nursery Teachers : A Report of the Activity 2018**

松 本 希 ・ 鎌 田 雅 史
秋 山 真理子 ・ 荊 木 まき子
伊 藤 優 ・ 小 谷 彰 吾
土 田 耕 司 ・ 柴 川 敏 之
ズビャーギナ章子 ・ 土 倉 由 妃
澤 津 まり子

潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育 －2018年度活動報告－

Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training
Project for Potential Nursery Teachers : A Report of the Activity 2018

松本 希 (幼児教育学科)・鎌田 雅史 (幼児教育学科)
MATSUMOTO Nozomi KAMADA Masafumi
秋山 真理子 (幼児教育学科)・荊木 まき子 (幼児教育学科)
AKIYAMA Mariko IBARAKI Makiko
伊藤 優 (幼児教育学科)・小谷 彰吾 (幼児教育学科)
ITO Yu KOTANI Shogo
土田 耕司 (幼児教育学科)・柴川 敏之 (幼児教育学科)
TODA Koji SHIBAKAWA Toshiyuki
ズビャーギナ 章子 (幼児教育学科)・土倉 由妃 (潜在保育士プロジェクト)
ZVYAGINA Akiko TOKURA Yuki
澤津 まり子 (幼児教育学科)
SAWAZU Mariko

キーワード：潜在保育士，復職支援，卒後リカレント教育

I. はじめに

2018年度の岡山市の待機児童数は551名¹⁾であり、前年度の849名から大幅に減ったものの、この待機児童数は全国の自治体の中でも高い水準である。2018年度は岡山市の保育所等の利用定員が735名増加¹⁾するなど、児童の受け入れ先である保育所等の新たな開設や増員も行われており、保育を支える保育士の人材確保が課題となっている。岡山市では2014年に岡山市保育士・保育所支援センターを開設し、潜在保育士の再就職のサポートを行っている。岡山県やその他の岡山県内の自治体においても、同様に保育士・保育所支援センターを開設している。潜在保育士とは、「保育士資格を持ちながらも就業していない人、なお保育士としての勤務経験がある人、ない人どちらも該当」と定義されている²⁾。そこで就実短期大学幼児教育学科においても、就職を希望する潜在保育士の方々の保育士復帰を後押しすることを目的として、2014年度に潜在保育士復職支援プロジェクトを立ち上げ、研修会や体験実習の場を設けている^{3) 4)}。2014・2015年度は岡山県の委託事業として、2016年度は公益財団法人福

武教育文化振興財団の助成を受けて活動した。今年度は、岡山県の委託事業「保育士養成施設連携強化事業」の一部として実施している。

2014年度の本プロジェクトの活動として、研修会以外にも本学科卒業生を対象とした実態調査を実施した。その中で、離職者を防ぐための一助として卒業後も継続した支援が必要であることがわかった⁵⁾。そのため、2015年度以降は、潜在保育士復職支援研修会に加えて、現職の保育士を対象とした卒後リカレント教育研修会としても同時に実施している。

2017年度の活動報告⁴⁾では、残された課題として、「受講者の拡大」、「研修内容の改善」、「本研修会と学科行事との連携」という3点が指摘された。「受講者の拡大」というのは、潜在保育士復職支援研修の知名度が不足しており、受講者の数が少ないということである。広報活動のさらなる工夫や受講希望者の参加しやすい日時の設定等が求められるであろう。「研修内容の改善」とは、潜在保育士に向けた講義内容であるとともに、現職者のリカレント教育も視野に入れた講義内容にしていく必要があるということである。多様な背景を持つ受講者のニーズに合致するような講義内容への配慮が求められるであろう。「本研修会と学科行事との連携」とは、潜在保育士復職支援研修会及び卒後リカレント教育研修会に留まらず、サポート体制の充実が必要であるということである。例えば、学園祭の期間中に行う「里帰りトーク会」等を活用し、卒業生の悩みを聞く等の離職防止のための心理的サポートや離職者に対しての新たな就職先の斡旋などを行うことが考えられる。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめた、2018年度の潜在保育士復職支援研修会及び卒後リカレント教育研修会について、その経過及び結果をまとめたものである。

II. 活動の内容

昨年度に続き、潜在保育士復職支援の研修会を以下の日程で実施した。本研修会は、卒後リカレント教育研修会も兼ねており、受講者の中には現職の保育者も参加している。研修会内容及び受講者数は表1に示す通りである。以下に研修会の様子、講義内容と受講者の感想を示す。なお、表1の講義内容の科目名の前に記した丸付き数字と研修会の様子及び講義内容に記した丸付き数字が対応している。

表1. 2018年度潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会一覧

日程	講義内容 (10時～12時)	受講者	講義内容 (13時～15時)	受講者
8 / 18(土)	①乳児保育 (澤津)	13名	②幼児体育 (松本)	12名
			③情報 (意見) 交換会 (澤津)	2名
8 / 29(水)	④教育相談 (荊木)	10名	⑤器楽 (秋山)	7名
9 / 8(土)	⑥特別支援 (鎌田)	13名	⑦情報 (意見) 交換会 (澤津)	8名
9 / 11(火)	⑧就実こども園での体験実習 (9～16時)			1名
9 / 15(土)	⑨就実こども園での体験実習 (9～16時)			6名

【研修会等の様子】



①乳児保育



②幼児保育



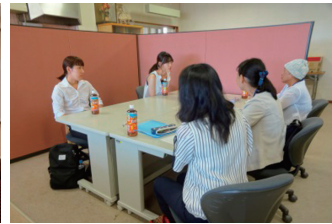
④教育相談



⑤器楽



⑥特別支援



③情報（意見）交換会



⑦情報（意見）交換会



⑧⑨体験実習



⑧⑨体験実習

①乳児保育

理論編として、昨年改定された保育所保育指針の中で、乳児保育に関係する3歳未満児の保育や養護の重要性、保育所の教育機関としての位置づけ及び職員の研修体制の強化について解説した。実技編としては、乳児期の遊びについて、心身の発達を踏まえて紹介した。また、保育記録については、乳児個人指導計画、乳児保育日誌、児童票の資料を配付して説明した。

受講者による感想

- ・保育士の資格を取ったが、就労経験がないため本当に働くことができるか不安な面があった。今回の研修で学んで自信をつけたいと思っている。
- ・保育園で働いているが、なかなか勉強する機会がないのでありがたい。特に保育所保育指針の改定、資料の書き方、災害時の現場の様子、最近話題の『非認知能力』についてなど、いろいろな話題の講義が聞けてとても良かった。
- ・指針改定のポイントをおさえることができ良かった。現場でどう対応していくか、困っている状況もあるが、子どもたちの豊かな育ちのために、保育者が変わっていかねばならないと感じた。時代の変化に対応しつつ、保育の本質は変わらず、「子どものために」

であるべきだと改めて感じた。

②幼児体育

現在の子どもを取り巻く健康問題について講義を行い、その問題を予防・改善させるための一助となる運動遊びを紹介した。前半は、乳児期の子どもに考えられる問題を解説し、乳児の抱き方や乳児期に経験させておきたい運動を取り入れたふれあい遊びを紹介した。後半は、「幼児期運動指針」を解説し、幼児を対象とした保育現場で人気のあるリズム体操や運動遊びを紹介し、実際に体を動かして体験した。

受講者による感想

- ・3歳未満児の担当をしているので、ベビーマッサージが興味深かった。声掛け、足から触れることなど、基本的なことから学べたので勉強になった。
- ・幼少期から遊びを通して身体を十分に動かすことで発達を促すだけでなく、その運動経験が将来大人になっても生きてくるとのことで、運動や健康の大切さを知れて良かった。
- ・実技的なものは、離職するとする機会がないので、今回体験することができてよかったです。

④教育相談

「子どもや保護者の発達によりそう」をテーマに、幼児期の特徴と生涯を通じての影響、各発達段階における問題行動や様々な行動への関わり方、保護者に対する支援について講義を展開した。各発達段階で起こりがちな問題行動の事例を元に、受講生はグループ討論で意見を交換した。また、保育者がゆとりを持つことで、気持ちに寄り添った対応ができることに触れ、まず保育者自身が心の健康を保つことの大切さを伝えた。

受講者による感想

- ・独学で資格取得をしたため、保育の具体例は大変勉強になった。グループ討論では現職の保育士とも話すことができ、貴重な経験ができてよかった。
- ・子どもの年齢別、おかれた状況によって問題解決は変わっていくので、教育相談のスキルを身につけて保護者と話し、関係性を築いていくことが大切だと思った。
- ・実際に起こりそうな相談内容の事例がいくつかあり、とても参考になりました。また、いかに乳幼児期が人間形成において大切な時期か、あらためて勉強させてもらいました。

⑤器楽

前半は、コードネームについて説明し、各々がピアノを実際に弾きながら、コード伴奏は保育現場での子どもの歌の弾き歌いやその他の音楽活動にも大変役立つものであることを体験してもらった。後半は、ペットボトルを使って楽器を製作し、学生が授業で作った手作り楽器も加え、知育楽器ドレミパイプと共に参加者全員で合奏した。簡単なリズム遊びを繰り返

返しながら色々な楽器と一緒に音楽を作り上げていく楽しさを実感してもらった。

受講者による感想

- ・ペットボトル一つでたくさんの楽器が作れることを知り、大変参考になった。みんなで楽器をたたくととても楽しく、「子どももこんな気持ちなんだ」と身を持って体感した。
- ・ピアノを習っていたのは昔で、何十年ぶりに触れたが、とても楽しかった。ピアノコードがわかりやすく、難しく捉えることなく弾けることがわかり、安心した。
- ・まずは音楽やリズム、歌を楽しむ、それが子どもたちへ伝わる・伝えることが大切だなと思いました。

⑥特別支援

前半は、特別支援教育に関する基本的な理念や教育行政の動向、発達障害とはどのような障害であるかについての基本的事項について概説を行った。特に、発達障害に関する多くの誤解や偏見が、実際の支援を難しくしている現状や、診断名が独り歩きすることの危険性について紹介したのち、放置することによる二次障害のリスクや、支援をするためには適切な知識が必要であることを示した。後半は、『気になる子ども』との関りを円滑にするための、具体的な支援方法や留意点に関して紹介した。また、子どもの気持ちに寄り添うために、具体的な特徴がどのような不適応を起こし得るかについても解説を行った。

受講者による感想

- ・発達障がいに関して、基本的な考え方から、具体的な支援の仕方までを勉強することができて、とても参考になり、改めて学習できてよかったです。
- ・保育士の就労経験が無く、「特別支援」と聞くと難しいものだと感じていたが、基本的な考え方から、具体的な支援の仕方まで、わかりやすい言葉でとても勉強になった。
- ・発達障がいがある、無いに関わらず、共に生活していく上で、気持ちよく生活できるように支援するという考えが大切だと感じた。特別な対応をするのではなく、わかりやすい言葉や指示をすることでできると分かり、とても為になった。

③⑦潜在保育士情報（意見）交換会

岡山県の委託事業の一部として、就業支援、離職防止に係る情報（意見）交換会を開催した。一回目の参加者は、今春の本学卒業生で、既に離職した者と離職を考えている者であった。会には幼児教育学科の教員3名が出席した。ここに至った経過や行き詰まっている内容を受け止め、参加者間で意見を交換したり、教員からは実社会の現状やそれに対応するためのアドバイスをしたりした。

二回目は、岡山市保育士・保育所支援センターの担当者及び昨年の受講者で、復職を果たした2名を講師に招いて開催した。参加者から、次のような質問があった。「復帰しようと思った経緯は」、「去年保育士の資格をとったため、今まで保育士をしたことがなくて不安だが、

大丈夫だろうか」, 「体力的にきつくないか」, 「子育てとの両立は」, 「研修する場はあるのか」等, それに対して講師から丁寧な回答があり, 参加者の背中を後押しする有意義な会となった。

受講者による感想

- ・昨年参加されて就職された方のお話は聞けてよかったです。いろいろと疑問に思っていたことを聞けました。
- ・保育士として働いている方の声を聞け, とてもよかったです。入ってみてわかったこと, 入ってみたらわかったことを聞け, とても参考になりました。不安もありますが, 前向きに取り組めたらと思います。
- ・長く保育士として働いている大先輩の話も聞くことができ, 長く続けられる仕事だと実感した。

⑧⑨就実こども園での体験実習

平日と土曜日の2日間, 9時から16時まで3歳未満のクラスで実際の保育を体験していただいた。初めて子どもと関わった方も多く, 最初のうちは戸惑いも見られた。徐々に慣れ率先して担任保育士の補助をしたり, 積極的に子どもと関わってみるなど, 日常の保育業務を体験した。

受講者による感想

- ・子どもたちの笑顔に, 今日大丈夫かなあという不安をかき消してもらった。みんなが「先生」と呼んでくれ, とてもうれしく思った。担当の先生方の子どもたちへの接し方, ゆっくり丁寧に話す, いけないことはわかりやすく伝える, できたことはほめる, とても勉強になった。
- ・最初は不安だったが, 「先生」と呼ばれることに嬉しく, 子どもたちの笑顔が不安をすぐに掻き消してくれた。とても楽しく, 保育園で働いてみたいという気持ちになった。
- ・担当の保育士の子どもたちに対する接し方や, 保育士同士の連携も見ることができ勉強になった。

Ⅲ. 得られた成果及び評価

1. 受講者アンケート調査

研修会の受講者に対し, 無記名式のアンケートを実施した。その結果は図1・2・3に示す。

研修アンケート調査から, 受講者の年齢層は, 20歳代から60歳代まで, 幅広い年齢層であったことがわかった(図1)。

2015年からは, 卒後リカレント教育の場としても研修会を実施しているが, 今年度の受講

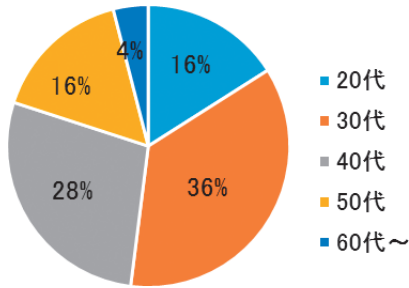


図1. 受講者の年代

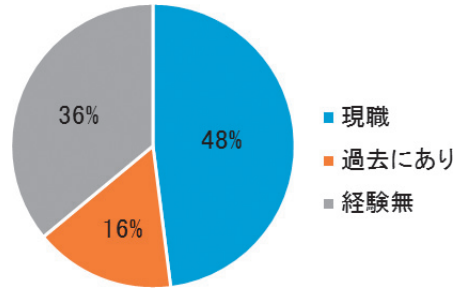


図2. 受講者の就労経験

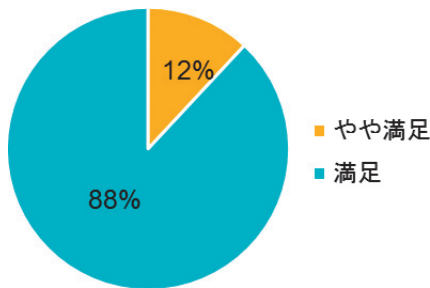


図3. 受講満足度

者の約5割が現職であった（図2）ことから、現職保育者がリカレント教育の場として活用していることがわかる。

また、図3に示す受講者の満足度をみると、満足している・やや満足している者が100%であることから、概ね研修内容は期待にそっていると思われる。

2. 潜在保育士復職支援研修会の実施状況

潜在保育士復職支援プロジェクトは、2014年度より取り組んでいる。研修会受講者及び再就職をした者の動向は、表2に示す通りである。

復職支援の成果としては、2017年度は8名（実受講者数の36%）が就職に結びついた。2014年度以降、受講者に占める就職者の割合は増加傾向にあり、一定の成果があったと考える。

表2. 潜在保育士復職支援の実施状況

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
研修申込者数	52名	24名	28名	23名	29名
実受講者数	31名	22名	24名 (12名)	22名 (13名)	25名 (13名)
就職者数（内定者含む）	5名	5名	7名	8名	4名

（ ）内はリカレント研修の受講者 *2019年1月24日現在

IV. 残された課題とその解決への展望

今年度の潜在保育士復職支援プロジェクトおよび卒後リカレント教育研修会を実施した結果、以下の3点が課題として考えられる。

1点目として、昨年度に引き続き本研修会を必要としている人への情報の周知及び案内方法である。昨年度の送付先に加えて、今年度は子育て支援センター等の公共機関を含めて新規に28か所の研修会ポスターや案内チラシの送付先を増やし、地元新聞へ広告掲載した。反対に、昨年度まで案内チラシを送付していた団体の事情により送付できなかった現状もある。一方で、受講者に行ったアンケートでは、本研修会を知るきっかけになった場所は、岡山市役所及び岡山市保育士・保育所支援センターが最も多く、勤務先や図書館と答えた者もいた。加えて、受講者が本研修会を知るきっかけとなった媒体は、案内チラシ、新聞広告、ホームページ等である。今まで、我々は本研修会を必要としている人へ研修会の案内が届くように、研修会ポスターや案内チラシの送付先の精査を続けてきた。しかしながら、保育士の離職原因の理由は結婚や妊娠・出産^{2) 5) 6)}が多く、さらに保育士の早期離職^{7) 8) 9)}が多いことを考えると幅広い年齢層が活用しており、簡便に情報の収集がしやすいホームページやSNSの活用をより充実させる必要があると考える。このような方々は、すぐに再就職につながらないかもしれないが、研修会に参加することで現在の保育現場や各教科の最新トピックスに触れ、将来的に復職を考える時の手助けになると考える。またホームページやSNSの活用に際しては、早めに情報を発信し、受講希望者が研修会に参加するために休暇を取ったり、子どもを預けたりするなどの計画が立てられるよう配慮したい。

2点目として、実現場に即した研修内容の実施である。受講者アンケートでは、今後の研修内容の要望として、書類の書き方、手作りおもちゃの紹介、新聞紙や牛乳パック等の身近な素材を使用した遊びやおもちゃの紹介などが挙がっていた。本研修会の受講者には、保育士試験に合格した者も毎年一定数いる。保育士試験とは、一般社団法人全国保育士養成協議会が実施しており、受験資格を満たしている者が筆記試験と実技試験を受け、合格すると保育士の資格が与えられる¹⁰⁾。保育士試験合格者は、保育所実習等を行っていないため、保育士として就職するまでに子どもと関わったことのない者も多い。そのため、子ども理解を深めるための事例の紹介や子どもの年齢に合ったおもちゃなどの作成を希望していると考えられる。加えて、近い将来に再就職を考えている受講者にとっても、現場ですぐに使える手作りおもちゃや遊びの紹介や指導計画・児童票などの書類の書き方を知ることは、就職後すぐに活用ができるため要望に挙がったと推察する。今後はこのような背景も踏まえて、研修内容を見直す必要があると考える。

3点目に情報（意見）交換会の目的や内容を明確にする必要がある。本研修会は、潜在保育士だけではなく、卒後リカレント教育として現職の保育士も参加対象としている。潜在保育士復職支援研修会の「情報交換会」という名称では、復職のための職探しの情報交換をし

ていると捉えられている可能性がある。現職保育士の情報（意見）交換の場であることも受講生に伝える必要がある。また前述した通り、潜在保育士の背景は、結婚や妊娠・出産で離職した方や保育士試験合格者等様々であり、図1に示す通り受講者の年齢層も幅広い。潜在保育士及び現職保育士は、それぞれが抱えている悩みやそれまでの経験も多様であることが予測される。そのため、今後の情報（意見）交換会では複数の講師やメンターを配置し、受講者の要望に合った対応ができることが望ましいと考える。

岡山市の待機児童は、2017年度と比べて2018年度は減少したものの、まだ多くの子どもが待機児童として存在しており、保育士のニーズは高いままである。復職を希望する潜在保育士が、保育士としての自信を持って円滑に復職できるよう、今後も支援が必要である。

V. 参考文献

- 1) 岡山市, 岡山っ子育成局保育・幼稚部就園管理課「入園申込児童数（待機児童数）の推移」http://www.city.okayama.jp/okayamakko/kodomoen/kodomoen_00030.html（最終検索日：2018年10月23日）
- 2) 厚生労働省（株式会社ポピンズ）, 「潜在保育士ガイドブック（保育所向け報告書）」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000123468.html>（最終検索日：2018年10月23日）
- 3) 澤津まり子・田中誠・秋山真理子・松本希・鎌田雅史・笹倉千佳弘・柴川敏之・Z. 山田章子・荊木まき子・伊藤優（2016）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育の活動報告」『就実論叢』46, pp.199-205.
- 4) 柴川敏之・笹倉千佳弘・Z. 山田章子・荊木まき子・伊藤優・田中誠・鎌田雅史・秋山真理子・松本希・澤津まり子（2017）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育－2017年度活動報告－」『就実論叢』47, pp.221-228.
- 5) 澤津まり子・鎌田雅史・山根薫子（2015）「潜在保育士の実態に関する調査研究－離職の要因を探る－」『就実論叢』45, pp.191-200.
- 6) 神戸康弘, 上地玲子, 松浦美晴, 鳥越亜矢, 森英子, 中川淳子, 荒島礼子（2016）「潜在保育士のキャリア研究－20代30代保育士の「退職者」と「継続者」の比較による離職防止研究－」『山陽論叢』23, pp.49-64.
- 7) 遠藤知里・竹石聖子・鈴木久美子・加藤光良（2012）「新卒保育者の早期離職問題に関する研究Ⅱ：新卒後5年目までの保育者の「辞めたい理由」に注目して」『常葉学園短期大学紀要』43, pp.155-166.
- 8) 森本美佐・林悠子・東村知子（2013）「新人保育者の早期離職に関する実態調査」『奈良文化女子短期大学紀要』44, pp.101-109.
- 9) 松浦美晴・上地玲子・皆川順（2015）「潜在保育士問題解決解消に向けたリアリティショッ

ク研究の可能性の考察」『山陽論叢』22, pp.87-100.

- 10) 一般社団法人全国保育士養成協議会, 「保育士試験を受ける方へ」 <https://www.hoyokyo.or.jp/exam> (最終検索日: 2018年10月23日)